

# Together

SHUKUTOKU

<http://www.shukutoku.ac.jp>

No. **222** | 2018. 7. 1  
Summer

『学生生活、成長した夏・熱い夏』

◆特集

学長メッセージ

大学認証評価について

ともいきのこころ

学祖のふるさと 私たちのふるさと

Campus News

Cover Person

佐々木 莉奈さん  
(栄養学科3年)

## 校祖・輪島聞声先生、百回忌報恩記念顕彰碑 除幕式・講演会が行われました



▲松前町に建立した輪島聞声先生の顕彰碑



▲除幕式・講演会参列者による記念撮影



米村教授による講演会▶

校祖・輪島聞声先生は1920年に69歳で入寂され、来年2019年が100回忌となります。この度100回忌を記念して校祖生誕の地、北海道松前郡松前町に顕彰碑を建立いたしました。

この記念事業では、6月1日に除幕式並びに講演会が松前町にて開催されました。除幕式は、清水良潔上人ご導師のもと顕彰碑建立地の地権者・小坂テツ子様や松前町教育委員会教育長・宮島武司様をはじめとしたご来賓を迎え、大乘淑徳学園からは、淑徳高校同窓会淑徳水会会長や同後援会会長ら30名ほどが参列しました。

講演会は、大乘淑徳学園の長谷川匡俊理事長が関係者の皆様に感謝を述べると挨拶に始まり、松前町教育委員会学芸員・前田正憲先生から『蝦夷地』と『松前地』について』の講演がありました。続いて、本学総合福祉学部の米村美奈教授からは、『松前が生んだ輪島聞声尼』と題する講演が行われました。松前町で生まれた育った校祖の気質や思考、苦難にも打ち勝つ行動力がどのように生まれたのか、松前町の歴史や家庭環境を照らし合わせながら校祖について理解が深まる講演でした。

## こどものその創立60周年 記念式典・講演会がブラジルで行われます

学祖・長谷川良信先生は1953年に浄土宗僧侶として初めてブラジルの地を踏み、約11ヶ月間でおよそ12の市を国内巡歴しました。当時、日本からの移民は最盛期でブラジルで生活する移民の方々の実情を丹念に把握されました。こうした中で日系移民の方々の宗教や教育、生活上の様々な問題に関心を向けました。

1957年の渡伯で浄土宗別院日伯寺仮本堂の建築を開始し、日伯寺学園を設立。幼稚園や日本語学校、老人クラブや新移民相談所等の事業を展開し、翌年に「こどものその」の前身である「精神薄弱児治療教育部」を開設しました。

当時、日本からの移民が50年経過するところで孤児や生活困窮者の問題が認識されるようになり、知的障がい児の療育の課題がありました。日系移民の知的障がい児を「仏の子」として幸せにさせたいと学祖は願い、日伯寺学園を発展的に解消し、知的障がい児の入所施設「こどものその」を設立しました。こうした歴史をもつ「こどものその」が2018年に60周年を迎え、今年9月に「こどものその創立60周年記念式典・講演会」が開催される予定です。記念式典の法要では、大乘淑徳学園の長谷川匡俊理事長が導師を勤め、本学総合福祉学部の米村美奈教授による講演会も予定しています。



## 「三芳町『2020東京オリンピック』オランダのホストタウンに ～本学女子柔道部と連携～」 vol.1



4月27日、内閣官房より発表があり、埼玉キャンパスのある三芳町が、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンに、オランダを相手国として正式に登録されました。「ホストタウン」とは、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向け、スポーツ立国、グローバル化の推進、地域の活性化、観光振興等に資する観点から、参加国・地域との人的・経済的・文

化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げているものです。（内閣府HPより）本学女子柔道部が2008年の北京オリンピックの際にオランダ柔道チームの事前キャンプを受け入れたことなどから、本学と三芳町が連携して、オランダ女子柔道チームの受け入れに向けてオランダ柔道連盟と交渉を進めてまいりました。本学では、今後とも町と連携して地域の活性化や国際交流に貢献してまいります。

## COVER PERSON 表紙の人 No. 222

私は将来、病院で働く管理栄養士になりたいと考えています。大学では臨床栄養学や給食経営管理論をはじめ、多くの必修科目の勉強に動んでいます。12月には3週間の病院臨地実習があるため、今まで学んだ知識が活かせるよう、日々の授業に意欲的に取り組んでいます。まだ私にとって、病態にあった献立を作成したり、食事指導を考えたりすることは難しく大変です



看護栄養学部栄養学科3年 ささき まりな 佐々木 莉奈さん

が、将来患者様に「今日のご飯も美味しいね」と言っていただけのような管理栄養士になりたいと考えています。

## 大学認証評価について

我が国のすべての大学は、大学としての教育の質を保証するため、7年に一度国が認めた認証評価機関により大学評価を受けその結果を公表する義務があります。大学にとっては、社会的存在理由を明らかにし、社会に対して説明責任を果たす機会であり、米国のアクレディテーション方式にならって、平成14年の学校教育法改正により制度化されました。

本学では、平成16年第一期、23年第二期、そして今年30年に第三期認証評価を受審します。内容は、大学の教育の理念・目的、教育内容や方法、教育研究組織、

就学支援・生活支援・進路支援などの学生支援、教育・研究等の環境整備、社会連携・社会貢献、国際交流、財務状況にいたるまで、大学の機能全般、ことに教育の質保証のあり方について自己点検評価をもとに認証評価機関の評価を受けるものです。

一例を挙げれば、「社会連携・社会貢献」では、「社会連携・社会貢献を推進するために、学外組織と適切な連携体制が構築されているか」、「社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動の推進が図られているか」などが評価の視点になっております。本学は、この項目では他にひけをとらない実績があると自負しており、既に、各キャンパスの地元

自治体や、企業、近隣の町内会など包括協定を締結し、それに基づいて学生諸君の学外教育プログラムを展開しております。

秋には、大学基準協会という認証評価機関から数名の評価員が実地調査に来学します。その際、教職員ばかりでなく学生諸君へのインタビューが設定されるかもしれません。指摘された項目は、本学で改善に取り組み、数年後にはその結果を報告することになります。何より学生諸君への教育の質を保証するためです。なお、過去に受審した認証評価結果や改善報告は、本学公式ホームページの「教育情報の公表」で公表しております。

## 一季一言



淑徳大学 学長 いそおか 磯岡 哲也



# 『学生生活、成長した夏、暑い夏』

夏休みの使い方は人それぞれ。…だけど、無駄に過ごすには、大学生の夏休みは長すぎる！今回の特集では、夏休みに大きく成長した、暑い夏休みを送った学生たちを紹介しましょう。皆さんも、夏休みを有意義に過ごし、自分自身を大きく成長させてください。



表彰式の様子。左手前、ピンクの三角巾が原田さん。

オリジナルレシピ。  
「梨だれの千葉を感じるかき揚げ丼」



私の所属する栄養サポートサークル e-Styleでは、以前よりグルテンフリーを推進する活動を行っていました。その一環で「栄養学若手研究者の集い」サマーセミナーに参加した縁で、山形大学先端フードテクノロジー研究開発センター主催のレシピコンテストに参加する機会を得ました。

コンテストで使用するのは、「α化米粉」という、小麦粉とも片栗粉とも、普通の米粉とも違う特徴を持った新しい食材。サークルメンバー全員でレシピ開発に取り組み、「千葉」「今までに無い」という2つのコンセプトのもと、「梨だれの千葉を感じるかき揚げ丼」が完成。書類選考を突破し、山形で行われた本選では、大勢の審査員、そしてカメラが回る中、調理とレシピのアピールを行いました。残念ながら優勝には及びませんでしたが、敢

闘賞を頂く事ができました。

今回のレシピ開発は、サークルとして、1、2、3年生の全員が協力して取り組む、初の活動でもありました。学年の壁がある中、1年生にも積極的に参加してもらえよう、発言しやすい環境づくりに努めました。また、レシピは、見た人に作ってもらえて初めて役割を果たす、という考えから、調理の手軽さにもこだわりました。

全国からの参加者が集う本選では、日本各地の食文化に触れるよい機会となりました。千葉ではメジャーな茹で落花生ですが、他の参加者には驚かれ、茹で方を聞かれるなど、交流のきっかけとなる場面も。各地特有の食文化を大切にしていきたいと考えようになりました。

## Case 2 原田 果歩さん

看護栄養学部栄養学科 4年

3年生の夏休み

レシピ開発  
コンテストで

食文化の大切さ  
を感じた！



東アジア全体を俯瞰した貨幣流通について調査することができました。

## Case 3 横川 雅子さん

人文学部歴史学科 3年

今年の夏休み

海外フィールドワークで

現地の歴史を  
実体験に！

歴史学科では、教室内での講義とともに、フィールドワークを重視しています。特に夏休みをはじめとする長期休暇中は、それぞれのゼミやサークルで、海外を含む各地を訪れ、現地の歴史を実体験する機会が多く設けられています。私も昨年度の春休みに、

東アジア考古学を専門とする三宅俊彦教授とともに、初の海外調査としてモンゴル・ウランバートルでの調査に参加。教室では学ぶことのできない貴重な体験をしました。

そして今夏には、8月後半から再度モンゴル・アウラガ遺跡での発掘調査に参加する

予定です。ここは、あの有名なチングス・ハーンの本拠地(大オールド)に比定されている都市遺跡。夏休みの大部分は、この調査に費やすことになりそうですが、同地に広がる大草原での発掘作業に携わることができるので、今からとてもワクワクしています。

## Case 1 中村 蓮さん

経営学部観光経営学科 4年

3年生の夏休み

インターンシップで

視野が広がった！



インターンシップ中に体験プログラムが組み込まれており、和菓子作りとお茶の体験をしました。白・紫・黄の餡で桔梗の花を作りました。

ホテルの広報を担当されている社員の方に、ホテル全般についてインタビューをしました。



南禅寺や平安神宮など、近隣に観光地がある好立地に位置しているホテルの外観。

1年生の頃から就活に関心を持ち、毎年夏休みにはホテル業界を中心にインターンシップに参加していました。中でも、3年生の夏休みに参加した京都のホテルでのプログラムが強く印象に残っています。

そのプログラムでは、『ホテルをもっと広めるための広報戦略の立案』という課題が出されました。館内視察だけでなく、実際に客室に宿泊したり周辺の観光地に足を運んだり、宿泊者の視点からホテルの魅

力や広報のための材料を集める中で、魅力的な館内デザイン、立地を生かした観光地への誘導など、サービスへのこだわりを強く感じ、すぐに企画の作成に熱中しました。

ホテル全体のデザインに込められた遊び心や、平安神宮の鳥居が見えるラッキーな個室など、自分が実際に感じた『写真を撮りたくなる』という気持ちをそのまま柱として、SNSで発信する企画を提案することができました。

就職活動もホテル中心に見て回っていましたが、どう方向に進むか悩んでいた時期でした。それまでは、シティホテルやリゾートホテルのような華やかさのあるホテルしか調べていませんでしたが、地方の規模の大きいホテルでもお客様のために意義のある仕事ができるということを実感し、選択肢が広がりました。

「働く」ということに対する視野が広がった夏休みだと感じています。



夜はゼミ&交流会。最高の仲間意識を育み、得難い1日は更けていきました。

岸上ゼミのゼミ合宿では、日本で初めての開国の地や黒船来航で知られる伊豆下田にある博物館を見学したり、地元のお寺で講話を聴くなどして歴史的な面での地域研究を行いつつ、水族館やロープウェイなどを見学しながら観光地としての面でも地域研究を行いました。

あるグループが行ったのは「観光客(家族)視点」での地域研究。まずは観光協会の案内所で「一般的な家族の観光コース」をお聞きして、地域を調査しました。

生き物を間近に見て触れられることが特徴の下田水族館、歴史を学びながら下田港内を巡る遊覧船、など、家族で楽しめるスポットをいくつも発見することができました。

興味深かったのは、グループで家族になりきり、家族の視点から地域を調査することで、注目するポイントが普段とは全く別のものになったことです。今回のゼミ合宿を通して、様々な視点で物事を見る、つまり、「寄り添う」ことが大切だと感じるようになり、普段の生活でも普段と違う見方を意識するようになりました。

## case 6

うえの えりか **上野 絵里加さん**  
 まるもと りょうたろう **丸本 綾太郎さん**  
 そや **征矢 あゆみさん**

コミュニティ政策学部コミュニティ政策学科 4年 岸上眞子ゼミナール

3年生の夏休み

ゼミ合宿で地域に接して

「寄り添う」姿勢の大切さを実感した!



ブラジルでの体験は、私の一生の宝物。帰国後も広い視野をもって勉強に取り組んでいます。



ブラジル派遣研修生として、約3週間の研修に参加しました。サンパウロにある日伯寺研修センターを活動拠点として、福祉施設や日本語学校を訪れ交流したり、日系家庭でホームステイを経験しました。

ホームステイ先では、家族の皆さんがポルトガル語で会話をしていたため、自分の意思を伝えることが難しかったです。ですが、ジェスチャーを交えて意思疎通が図れた時は本当にうれしく、また家族の皆さんも同じように喜んでいたりとはっきり感じることができました。

研修を通して、「伝える」ということについて考え方が変わりました。言葉の壁がある中でのコミュニケーションで、今まで経験したことがないくらい強く「伝えよう」という気持ちになったことを覚えています。ステイ先の皆さんと別れのハグをした時には、別れを惜しむ気持ちで繋がっているとほっきりと感じ、自然と涙が出ました。

大切なのは相手にしっかりと気持ちを向け、全身で伝えることなのだと感じました。



## case 7

おしお かなこ **置塩 加菜子さん**

人文学部表現学科 3年

2年生の夏休み

ブラジル派遣研修で

「伝える」ことに対する考え方が変わった

## case 4

かじま しょうご **鹿島 捷吾さん**

総合福祉学部社会福祉学科 4年

2年生の夏休み

オープンキャンパスの企画を立てて

相手の立場で考える力が付いた!

1・2年生の夏休みは、アドスタッフとしてオープンキャンパスの準備に参加しました。1年生の頃は学内の誘導や体験授業の手伝い、学生相談などの部署で経験を積み、2年生では学生企画を考える役割に就くことができました。

最初の1、2回は先輩が行っていた企画を流用して実施していましたが、同じ企画を続けても参加人数が増えないという問題に直面。そこで、オープンキャンパスに来る高校生の目線になって、「大学を知りたい」「楽しい企画なら参加したい」という観点から新しい企画を練り直しました。

メンバー全員の協力の甲斐あって、「毎回の新しい企画がとても楽しい」「他の大学にはない企画なのでまた参加したい」など、高校生の反応は上々に。何度も繰り返し参加してくれる方までいました。

自分にとっての夏休みは、オープンキャンパスに限らず、今やっていることの意味、何故行うのかを考える貴重な機会となりました。



1・2年次の時間割や授業の様子などをPower Pointで発表。

## case 5

たかなし りほ **高梨 里帆さん**

看護栄養学部看護学科 4年

1年生の夏休み

ボランティア活動で

チャレンジ精神が付いた!



千葉県内で、主に子どもと多く関わるボランティアに参加しました。ボランティア自体はそれ以前からも経験がありましたが、長期の休暇を利用して様々な活動に参加することができました。

入院中の子どもと遊んだり、学校付近の幼稚園の夏祭りに参加したり、病気で亡くなった子を持つご家族が集まるグリーフ茶話会のボランティアなど、内容は様々。その分、たくさんの人に出会えました。

活動に参加する前は、ボランティアという言葉に対して「やってあげる」という思いを持っていましたが、実際に参加してみると様々な思いや考え方など、教えていただくことばかりでした。ボランティアは「人と出会うきっかけの場」であり、「共に分かち合える場」でもあるということを知ってからは更に活動に熱中しました。

また、以前よりも色々なことにチャレンジする勇気が身に付き、憧れるばかりだった英国研修にも参加することができました。

関わる一人ひとりの気持ちや価値観を尊重した看護師を目指して勉強していきたいと思っています。



英国研修にて、ホストマザーとの記念の一枚。



# case 10

やまもと まりな  
**山本 麻璃菜さん**

総合福祉学部実践心理学科 4年

2年生の夏休み

インターンシップに参加して

就活への心構えができた！

早い時期から就職活動に意識を向けることで、沢山の情報収集ができると思い、2年の夏休みからダイハツ千歳販売株式会社にインターンシップに参加しました。

本社でビジネスマナー研修を受けると、次は店舗研修。実際の接客を任せられました。「相手の立場に立った接客」「積極的な行動」という二つの目標を持って仕事をしていくうち、お客様を歓迎するホワイトボードの記入を任せられるなど有意義な5日間になりました。また、2日続けて来店されたお客様に顔を覚えてもらうことができ、声を掛けてくださったことが嬉しかったです。

就活を終えた今、2年生から就活への心構えができていたことが大きなプラスになったと感じています。



発表することで、何ができて何ができなかったのか、また何ができるようになったのか自分について考える時間になりました。

生協学生委員は、例年淑徳祭でうどん屋を出店します。それに向けた夏休みの主な仕事は、昨年の反省から提供方法の改善策を検討すること。

これまでお客さん視点での改善はありましたが、委員同士相手のことを考えて行動するという視点が欠けていました。麺の茹で時間が調理する人の好みによってまちまちだったり、トッピングの入れ方の基準が定められていなかったり、忙しいときにはマニュアルを守れていなかったり、問題点が多く見つかりました。

接客においても話し合いにおいても、大事なのは相手を思いやること。相手に応じて、どんな説明をすれば分かりやすいか考えることで、互いに有意義な意見を出し合うことができました。



仲間達と改善を重ねた試食会の様子。



# case 8

いしわた なおひろ  
**石綿 尚大さん**

経営学部経営学科 2年

1年生の夏休み

生協学生委員として活動して

思いやりの精神が身に付いた！



# case 11

せきかわ みな  
**関河 未菜さん** (右)  
やぎ まりな  
**八木 麻梨奈さん** (左)

教育学部こども教育学科 4年

2・3年生の夏休み

雄勝学習支援ボランティアに参加して

将来の目標ができた！



受験を控えた雄勝中学校3年生の学習を支援し、さまざまな話で交流を深め、楽しい時間を過ごしました。



現地で学習支援の実践を繰り返す中で、自分なりに将来の教員像が見えてきました。

東日本大震災以降、淑徳大学と交流が続いている宮城県石巻市雄勝町の雄勝小学校・中学校にて、学習支援ボランティアに参加しました。

夏休みの宿題を中心に学習支援を行ったり、新校舎の図書館に図書を搬入し整備をしたりしました。子どもたちとの距離の縮め方、学習のわかりやすい教え方など参加者全員で話し合いをし、翌日に実践をしました。また、被災地の見学や話を聞き、当時の震災の様子や現在の被災地の様子を知りました。

現在も震災の爪痕が残る被災地を目にして、多くの命を奪う災害の悲劇と恐怖を感じました。しかし、雄勝小学校・中学校の子どもたちは、悲劇を感じさせないほど元気に過ごしています。その姿に勇気づけられるとともに改めて命の大切さを実感しました。

将来は教員として、子どもたちに被災地の現状を伝え、被災者の気持ちを受け継ぎ、思いやりを持った子どもを育てたいと思います。そして、今後も復興支援が継続できるような社会のため、私たち自身もできることから参加していきたいと考えています。



(旧)大須小学校

雄勝学習支援ボランティア

子どもたちと接する中で消えていった緊張と不安。思い切って一歩踏み出す勇気をもらいました。



大学入学後すぐのゴールデンウィークに宮城県石巻市雄勝町でのこいのぼりボランティアに参加したのをきっかけに、同地区の子どもたちが通っていた(旧)大須小学校・中学校での学習支援ボランティアに参加しました。

はじめは、「未熟な自分では、被災者でもある子ども達の心の傷に触れてしまうのではないか」という不安があり、大変緊張しながら子どもたちと顔を合せました。しかし、子どもたちの明るさや希望に満ちた目を見ているうちに、不安はいつの間にかなくなり、私の方が元気をもらっていました。

私は教職を目指す中で「教える」ということに意識が強く向いていましたが、子どもの持つ力は、私たちが思っているよりもずっと大きく、このボランティアを通して「子ども達と共に学ぶ」という姿勢を学びました。

当時の大須小学校・中学校は閉校し、現在は雄勝小学校・中学校に統合されてしまいましたが、ボランティアの思い出ははっきりと残っています。



# case 9

みうら ともや  
**三浦 知也さん**

総合福祉学部教育福祉学科 4年

1年生の夏休み

雄勝学習支援ボランティアに参加して

共に学ぶ姿勢が身に付いた！

# 淑徳人 No. 222

HISAMATSU Narumi

## 久松 愛海さん

淑徳小学校 勤務

淑徳小学校で2年生の担任を務める久松さん。進路を決意したのは教育実習での体験やゼミの先生からのアドバイスなどからですが、全く無関係の出来事や経験があつてこそ。学生時代は遊びも勉強も一生懸命にやった人が、納得のいく未来を手にすることができると実感したそうです。それを教えてくれたのも淑徳大学の学びだと久松さんは話します。



2017年 教育学部 こども教育学科卒業。新卒で淑徳小学校へ勤務し、教員になって2年目。昨年度は1年生担任を経験し、今年を持ち上がりで同じ2年生を受け持つ。多忙でも一生の仕事にしていける思いは大学生活に培った経験が財産だという。

久松さんが勤務する淑徳小学校はご存知の通り母校と同じ系列校。子ども達を前に日々目まぐるしく過ごされているようです。「子ども達の様子は毎日変化があり一日があつという間です。特に低学年にとって学校ではもう一人のお母さんにならないといけないのだな、という場面もあります。目標にしているのは、淑徳小学校に教育実習に来た際に指導教諭を務めてくださった小林先生です。現在では同じ低学年ク

### 学生時代は存分に遊び、今しかできないことを探究してほしい。

ラスを担任されているので、立ち居振る舞い全てを見習うつもりで、勉強させて頂いています」  
就職に就きたいという意思が固まったのは高校3年の頃です。それまでは、スノーボードと水族館が大好きで関連の職業も捨てきれなかったとか。そんな時、小学時代の卒業アルバムを眺めていたら、将来の夢は学校の先生、という幼き頃の自分を発見。そこから子ども達の夢を育てる先生になろうと決意し淑徳大学のこども教育学科へ進学。

「私の名前に海という漢字があるのですが、実は高校2年まで海は苦手だったのです。スノーボードは好きだけどもリンスポーツに全く興味はなかったのに、ある日水族館へ行つた時すつかり心奪われてしまい、イルカショーのお姉さんに憧れて真剣に将来を考えていた時期がありました。でも現実をしっかりと見据えた時に自分がそれらの仕事に就くのではなく、自分と同じように夢を持つてなりたい将来を目指す子ども達に道を示してあげられる、学校の先生」という職業に就きたいと大きく方向転換していったのです」

在学中の久松さんは、とても落ち着いていてレポートなどの提出物はきちんと期日を守る学生

「ゼミの先生だった高橋敏先生には、卒業した今でも小さな悩みにも相談に乗ってもらっています。在学中は留学や進路で迷っていた時、「一回やってみればいいよ」という一言をかけて頂いたおかげで決断できたり、いつも親身になってくれたことが支えになつてきました。そんな大学生活を通して振り返ると、もう少し遊んでも良かったかなと。学生時代の自分しか経験できないことがたくさんあったと、ほんの少し後悔している。現役の学生には思う存分やりたいことをやってその中で明確な進路を選択してほしいと思います」

### Photo × Photo



【短期海外研修（オーストラリア研修）】オーストラリアの小学校や大学に行くことができ、小学校では日本語を学ぶ子どもたちの様子も見ることができました。とても貴重な経験ができ、成長できた研修でした。



【卒業式】3年生の頃から共に頑張ってきた高橋敏ゼミ。卒業式では、今までのことや将来のことをたくさん語り合いました。



### 学祖ゆかりの場所

◆得生寺(とくしょうじ)  
茨城県桜川市真壁町古城にある浄土宗の寺院。延徳2年(1490年)に開創されました。良信先生は帰省の折に、養父・智誠が開いていた寺子屋の代範(代理の師範)として子どもたちを教えていました。また、得生寺の23世住職、境内地にある真壁保育園初代園長をつとめています。真壁町(茨城県桜川市)は、その町割りには戦国時代末期の真壁氏時代に形づくられ、江戸時代初期の浅野氏時代に完成したといわれています。その時代からほとんど変わらない町並み、蔵や門などの歴史的建造物が見どころです。

【桜川市観光協会ホームページ】  
[www.kankou-sakuragawa.jp/](http://www.kankou-sakuragawa.jp/)

◆笠間市(かさまじ)  
良信先生は茨城県西茨城郡南山内村字本戸(現・笠間市)で生まれました。笠間市は茨城県の中央部に位置し、JR常磐線・水戸線、常磐自動車道・北関東自動車道などが同市と首都圏や周辺都市を結んでいます。日本三大稲荷に数えられる笠間稲荷神社や陶芸(笠間焼)などが全国的に知られています。観光農園や陶芸、ハイキング・トレッキングなど体験型・滞在型のアクティビティが充実しているのも楽しみです。笠間市は、本学と連携協力協定を提携し、活動を展開しています。

【笠間市観光協会ホームページ】  
<http://www.kasama-kankou.jp/index.html>



本学園が笠間市に遷座した慈母観音像

◆ここに述べられた「愛着」と「自責」とはどのようなことだったのでしょう。その

【桜川市観光協会ホームページ】  
[www.kankou-sakuragawa.jp/](http://www.kankou-sakuragawa.jp/)

【卒業式】3年生の頃から共に頑張ってきた高橋敏ゼミ。卒業式では、今までのことや将来のことをたくさん語り合いました。

### ともいきのこころ

# 学祖のふるさと 私たちのふるさと

学祖の生涯には幼少期の経験が色濃く影響を与えています。ふるさとや育ててくれた人々のことを学祖はこよなく愛していました。今号ではそのふるさとやゆかりの土地を紹介しましょう。夏休みに訪れてみるのもよいでしょう。また、実家に帰省したり、家族と過ごしたりして、その温かさをあらためて噛みしめるのも夏休みならではの時間の過ごし方でしょう。

### 学祖を支えた人々

良信先生の晩年の言葉に、ふるさとについて触れている箇所があります。人間が過去をなつかしみ、未来に夢を追うのは、自然の姿であるが、この頃夏休みで、千葉の寺にゆき、愛知の半田(妻・よしの郷里、編者注)にゆき、常陸の真壁に養父母の墓参をなし、又仕事の関係では、五十年第二の故郷とも云うべき菓鴨のマハヤナに週日を寝泊りしたり、与野の学校にいつは幼稚園工事の跡仕事をしたり、校庭の草むしりなどして見ると、我が身にまつわるそれぞれの縁古縁が想起されて無限の感触に浸ると同時に、こみあげてくる愛着と自責とが綿々として果てしないことではある(後略)。(心の花束 昭和36年8月)

この頃、養父のほか、良信先生を支えた存在として、島田家を挙げる事ができます。養母小池やすの従姉妹、島田きよは良信先生を「ヨシ」とか「ヨツちゃん」と呼んでかわいがりました。きよの夫、勘吉も、きよと同じように良信先生をかわいがり、得生寺と島田家が近かったこともあって、島田家の子どもと同様に育つたということですね。良信先生が浄土宗立第一(現・大正大学へ進学する際には経済的援助を惜しまず、さらに後年の欧米留学の際にも多大な支援を行ってくれました。きよは夏休みなどに良信先生が帰郷するのを心待ちにして、「ヨシが帰ってくるから」と言っただけで新しい着物を仕立て、会

える日を指折り数えて待つていたほどでした。良信先生もまた、帰省する際には、まず島田家に寄り(その後、島田家は水戸市に転居していた)4、5日滞在してから、真壁町の得生寺に帰るのを常としていました。さらに後年、勘吉が死去したときには、重要な要件で出張中の大阪から急いでかけつけ、すでに書きあがっていた木の墓標を削らせて自ら新たに揮毫したということですね。また島田家の三女とは特に仲が良く、良信先生が東京に移つてからも文通が続く、菓鴨のスラム街に身を投じて、貧民生活に入る直前の心境をつづつた書簡なども残されています。

このように良信先生には、実の母親と別居すると養父があらわれ、さらに島田家が手を差しのべるといったように、人の縁によつて育てられる不思議な巡り合わせがあり、これは終生続いたと言えます。これも仏縁ということでしょうか。

ともいきのはじまりは家族であり、幼なじみであり、身近な人たちと言えるでしょう。夏休み、あらためて自分を育ててくれた人々に感謝の気持ちで接したいものです。

## ゴールドリボン ウォーキング 2018 への参加



4月21日、お台場シンボルプロムナード・セントラル広場にて開催された「ゴールドリボン ウォーキング2018」に、8名の看護学科の学生と看護学研究科の大学院生1名がボランティアとして参加しました。本学は、3年前より唯一の教育機関として「ゴールドリボン

ウォーキング」に協賛しています。同時に、学生たちのボランティア参加も3年目になります。救護所では、看護師さんと共にAEDなどの準備を整え、参加者の怪我に対処しました。キッズ緑日コーナーでは、ヨーヨーやスーパーボールすくいの準備や、参加する子どもへの対応



▲子どもたちが楽しめるようにスーパーボールを準備しました。  
◀今年度の参加学生と記念の一枚

をしました。学生たちは、しゃがんで、子どもたちと同じ目線の高さになって話しかけていたので、最初は少し恥ずかしがっていた子どもたちも、すぐに笑顔を見せてくれました。どのような時でも、相手の立場になって自然に行動が出来る学生たちが誇らしかったです。

## 看護栄養学部 図書室のご紹介

当室は、看護、栄養を含めた幅広い医療系の専門書が豊富で、日進月歩にあわせ入れ替えも頻繁にしています。一般書も、お堅い小説ばかりでなく、学生さんの希望により話題書なども揃えています。毎月いただいたテーマに沿った図書展示と、付属の調理室や談話室(ラーニングcommons)を使用したイベントを、教員の協力を得て行っています。4月5月のイベントは「図書室の達人になろう」と「あなたのコミュニケーションスキルは何型??」でした。6月には「玄米食」をテーマに、本に載っている玄米を使った料理を作るイベントを行う予定です。楽しく、本に興味を持ってもらうことを目標に、司書の皆さんも日々頑張っています。昨年度、年間入室者数は4万8千人を超えました。今年度はさらに魅力的な図書室にしていきたいと思っています。イベントのアイデアなどのご提案をお待ちしています!

## 地域店舗と栄養学科ゼミ生とがコラボした商品『海苔プリン』完売 一加會利貝塚春祭り



5月5日、6日に加會利貝塚内で行われた春祭りに、栄養学科4年生が参加しました。晴天に恵まれた2日間ですが、両日で約1万人の来客で賑わいました。昨年の卒業生が「食による地域創生～海苔消費量増大プロジェクト～」の一環で開発した1つである「ノリノリプリン」も千葉駅5分のところに店舗を構えるBrasserie Bleuさんのご協力のもと、さらにパワーアップ。販売と同時に、即完売いたしました。また、加會利貝塚で非常に多く発掘されている貝「イボキサゴ」に注目し、今



▲店舗に掲げる看板を準備をしています  
◀海苔プリンはすぐに完売しました。

回、「イボキサゴ」という企画でも学生が大いに活躍いたしました。イボキサゴとは小さな巻貝で現在、商品価値もなく食されることもありませんが、煮出すとなんとコクのあるお出汁が出来ます。それを今回、ライスコロッケ、ラーメン、トマトスープ、たこ焼きなどに現代風にアレンジして出品されました。どこの店舗でも多くの行列の中、みなさん楽しんでいただき、祭りの彩りを添えることができました。秋にもお祭りが開催され、栄養学科とそれぞれの地域店舗とコラボしたメニューも出品する予定です。

## これからの夏季休暇 どう過ごす? 体験から学ぶ? 資格を取得する?

多くの卒業生から、「大学生時代様々な資格に挑戦しておけばよかった」「色々な経験をして社会性を身に付けておけばよかった」という声が寄せられています。新しい自分を発見しよう!

### キャンプの技術を体験したい

#### ベーシックアウトドア講座

【目的】キャンプの基本的な技術を学ぶ。教職や施設勤務を目指す学生には有益な体験となる。災害時の対応にもつながる。  
【事前説明会】7月10日(火)12:15~12:55 10-506教室  
【実施日】8月30日(木)~9月2日(日)  
【実施場所】ヒゲッチキャンプ場(埼玉県児玉郡)  
【費用】28,000円(参加人数で変更あり)  
【申込先】学生サポートセンター  
※希望者はキャンプリンストラクター資格を取得可能(別途17,000円)



### 発達障がい児の支援技法って?

#### 感覚統合療法を用いた子ども療育体験

【目的】発達障がい児のリハビリテーションや療育で用いられる支援技法の基本を実際の教育現場で学ぶ。  
【実施日】8月28日(火)~30日(木)(来年1月・2月にも実施)  
【実施場所】心結会まんまる(山武郡横芝光町)  
【費用】無料  
【申込先】学生サポートセンター

### 障がいのある方と野外活動を体験したい

#### 障がい者キャンプ支援体験

【目的】障がいのある方々と野外活動を共に体験する。対象者の理解と福祉的、教育的支援の技術を学ぶ。  
【実施日】8月12日(日)~13日(月)  
【実施場所】みずがき山リーゼンヒュッテ(山梨県北杜市)  
【費用】15,000円(交通費別)  
【申込先】学生サポートセンター  
※7月20日(金)までに池畑先生に空きがあるかをメールで確認  
ikehata@soc.shukutoku.ac.jp



### ICTって何? 電子黒板って?

#### 電子黒板を使ってみよう!!

【目的】電子黒板の基礎を学ぶ。現役の教員による模擬授業を体験する。  
【実施日】7月28日(土)  
【実施場所】12-301教室  
【費用】無料  
【申込先】QRコードから



### 職場ってどんなところ?

#### インターンシップ

【目的】職場体験から自分にあった職業を考える時間とする。マイナビ・リクナビなどのHPから検索してWebから申込み ※キャリア支援センターで相談受け付けます!

### PCスキルをUPしたい! 苦手意識をなくしたい!

#### MOS対策講座

【目的】将来に向けPCのスキルをupする。  
【実施日】①8月13日(月)~16日(木)WordまたはExcel  
②8月20日(月)~23日(木)WordまたはPowerPoint  
【実施場所】15-601教室・602教室  
【費用】25,000円(講座・受験料)  
【申込先】15-605教室に資料有

※上記の講座は、日時・金額・内容等が変更になる場合もあります。

## 板橋区のイベントに今年も参加!!



20名もの1年生を迎えた東京キャンパスHEARTサークル。今年もボランティアスタッフとして板橋区のイベントにたくさん参加する予定です。今年初のイベントは5月27日に開催された「こどもわくわくフェスタ」。「子どもの健全育成」と「子育て支援」を応援するために開かれるイベントで、親子連れの

方々が数多く来場しました。HEARTサークルのメンバーは、各ブースで行われる「遊び」のお手伝いをしつつ、子どもたちみんなが楽しめるように目配り気配り。1年生にとっては、初のイベントボランティア活動でしたが、自ら積極的に交流し、学外での「学び」を大いに楽しんでいました。

## 第2回人文学部被災地支援ボランティアふくしま

2月22日、23日の両日に歴史学科の学生13名が東京キャンパス協賛会の支援を得て、いまだ震災の爪痕が残る福島でボランティアに参加しました。1日目は「ふくしま資料ネット」の活動に加わり、東京電力福島第二原子力発電所がある帰還困難区域の富岡町から、郡山市内にレスキューされた史資料の整理作業を、福島大学の学生たちと一緒に体験。古文書や貴重な写真、古地図などの資料整理と目録作成、写真撮影等に従事しました。翌日は「富岡町3.11を語る会」のご協力で、郡山市内に避難している被災者の方からお話を聴き、被災直後の状況や現況を学びました。学生は貴重な体験ができ、感謝していました。



## ひとり暮らし学生向け懇親会開催



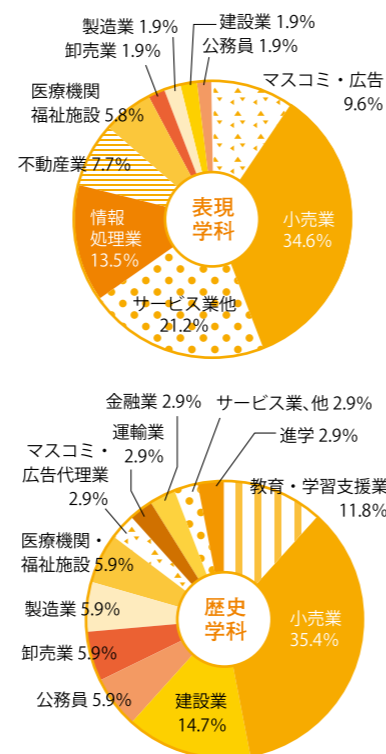
5月16日、東京キャンパスでは、ひとり暮らしの学生を対象とした懇親会を開催しました。当日は、短期大学の学生と人文学部の学生が合同で、焼きそばとホットドックの料理に挑戦。上級生の協力も得て、50名以上の学生が参加する盛況ぶりでした。それぞれの学科の枠をこえての楽しいひとときを過ごし、終始和やかな雰囲気ですべてを終えることができました。学生の皆さんがつくった料理も好評だったようです。完食!

## 淑徳大学人文学部一期生の就職実績について

人文学部一期生は、多種多様な業界へ就職しております。

表現学科では学びを活かした進路先として、広告会社1名、テレビ制作会社3名、地方ラジオ局1名が就職しています。また、警視庁へ就職した学生も1名おります。その他、小売、サービス、情報処理等、幅広い業界への就職を果たしました。

歴史学科は高等学校の教員に3名が就職いたしました。また、1名の学生が、市役所職員に就職しております。表現学科同様、警視庁に就職した学生が1名おります。その他、小売業界や建設・卸売等幅広い業界に就職しております。



## 「教育学部運動会」を開催!!

学校や幼稚園、保育園では、さまざまな催しが開かれます。教育学部では、卒業後、教職員として働く学生がそうした催しの企画や運営を実際に体験する一環として、1、2年生の実行委員が中心となって、学部学生の運動会を毎年開催しています。今年は5月19日に開催しました。

開会式後、午前中は障害物競走とダンシング玉入れの2競技、午後からは「台風

の目」と大縄跳びの合計4競技を、4つのグループの対抗戦として実施しました。昼の休憩時間中には、ダンスサークルのリバティによるパフォーマンスもあり、盛り上げてくれます。閉会式では、優勝杯贈呈に加えて、4つのグループそれぞれにユニークな賞が贈られるとともに、4年間ずっと参加してくれた4年生にも感謝状が贈られました。



## 経営学科130名の企業見学大移動:(株)明治なるほどファクトリー坂戸

5月23日、経営学科1年次学生120名および教員10名、計130名が(株)明治の坂戸工場(明治なるほどファクトリー坂戸)を見学しました。

(株)明治の担当スタッフより、同社の商品や工場敷地などをご紹介いただき、チョコレートの原料であるカカオの生産地域、輸入過程、そしてチョコレートの栄養素・健康効果などについて説明していただきました。その後、グループに分かれて様々なチョコレートとグミ商品の製造工程を見学しました。

工場の現場へ行くことで、(株)明治の

生産工程における異物混入防止対策、従業員の健康管理への取り組み、季節に合わせた生産商品の調整だけでなく、環境負荷の軽減対策など多くのことを学びました。有意義な現場体験型授業となりました。

## 留学生交流会を行いました



4月24日、学生ホールにて「留学生交流会(新入生歓迎会)」が開催され、新入留学生(編入生含む)10名、上級生6名、および教職員の計32名が参加しました。開会にあたり山口副学長より歓迎のご挨拶を頂戴した後、留学生は一人ひとりが自己紹介や今後の抱負を語りました。最初は緊張気味だった留学生も、立食パーティではリラックスして先輩や教職員との交流が盛んに行われ、有意義な懇談の場となりました。埼玉キャンパスでは、留学生交流会として年4回のイベント(新入生歓迎会・淑徳祭・秋のバス旅行・忘年会)を行っています。在学生と留学生たちが、今後更に交流を深めてくれることを期待します。



# 知識 × 健康

第19回



看護学科 准教授  
坂下 貴子先生

## 私たちの生活と体内時計

私たちの体には、約24時間で繰り返される生体リズムが備わっています。睡眠と覚醒のリズムだけではなく、体温やホルモンの分泌にも一日のリズムがあり、これによって日中は活動ができ、夜はよく眠ることができます。体の中に自発性のリズムを作る時計、体内時計を持っているからです。体内時計の周期は実は24時間より少し長く、この体内時計を24時間に調節することが大切です。朝の光は体内時計を早め、体内時計を毎日リセットしてくれます。

ところで大学生の皆さんは、授業の課題やアルバイトなどによって、夜間に光を浴びていることが多いかもしれません。実は夜の光は体内時計を遅らせます。つまり体内時計と私たちの24時間

の生活にずれが生じ、望ましい時間帯に就寝・起床することができなくなります。さらに大学の授業などのために朝起きなければならないと、体内時計がまだ眠りの時間帯に起床しなければならず、眠気や頭痛・倦怠感などが現れ、日中の生活にも影響を及ぼします。

体内時計を上手に使って、充実した大学生活を送ってみませんか。例えば早い時間帯に授業の課題やアルバイトをする、寝る前のパソコンやテレビ、スマートフォンの使用は避けるといったことも体内時計を整える方法の一つです。そして最も大切なことは、朝、目が覚めたら自然の光を部屋に入れ、体内時計をリセットさせ、一日を始めることです。

## 淑徳大学 スペシャルナイター

対象：全キャンパス学生／保護者／教職員



# 千葉ロッテマリーンズ VS オリックス・バファローズ

8月24日 金 18:15 試合開始  
ZOZOマリンスタジアム

※雨天の場合、中止することがあります。

当日本誌(Together 222号)を見せると、  
内野自由席入場料 通常2,600円→  
**500円(1名様)**で観戦できます。

● 本学学生証提示でもOK



### チケット購入場所

当日 ZOZO マリンスタジアムにて設置される淑徳大学ブースにて販売  
(16:00~19:30) ▶

## 看護栄養学部 第10回 川柳コンテスト



- 応募作品** 「看護や栄養に関わるテーマ」で看護栄養川柳を募集いたします。
- 応募点数** おひとり様1作品まで。
- 応募方法** ①応募フォーム(右下QRコードを読み取る)  
②FAX 043-305-1818  
③看護栄養学部事務部へ直接提出  
※氏名・住所・電話番号・メールアドレス・応募区分(一般・大学生・高校生・中学生以下)をご記入ください。
- 締切** 2018年8月6日(月) 必着
- 応募先** 淑徳大学 看護栄養学部「看護栄養川柳」係  
〒260-8703 千葉県中央区仁戸名町673  
TEL 043-305-1881 FAX 043-305-1818  
E-mail senryu@soc.shukutoku.ac.jp



## 編集後記

今月号では、学生時代の「夏休みの体験」を特集した。私にも忘れられない体験がある。10歳の夏、祖母と二人で伯父の住むブラジルに行った。帰りたくても帰れない生活は私を成長させた。小学生の私が見たブラジルは何もかもが衝撃的だった。山間部と都市部での貧富の差、インフレの影響で、一日でお菓子の値段は跳ね上がった。高熱が下がらず、医者に冷水中に浸かるようにいわれ、もうダメかと思った。帰国したとき、言葉が通じる安全な日本で、「怖いものは何もない」「やれば何でもできる」と思った。学生さんたちも、様々な体験の中で今までの自分の枠を一步步乗り越えたのではないだろうか。自分の枠を乗り越える体験は、人を大きく成長させてくれる。一人でも多くの学生さんに果敢にチャレンジする「暑い夏!」を過ごしてほしい。そんな「願い」が込められた222号でした。(伊藤)

「淑徳大学広報誌」に関するご意見、ご感想などのメールをお待ちしております! reply@soc.shukutoku.ac.jp

### 千葉キャンパス

総合福祉学部 コミュニティ政策学部 大学院 総合福祉研究科  
〒260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町200  
TEL: 043-265-7331

### 千葉第二キャンパス

看護栄養学部 大学院 看護学研究科  
〒260-8703 千葉県千葉市中央区仁戸名町673  
TEL: 043-305-1881

### 埼玉キャンパス

経営学部 教育学部  
〒354-8510 埼玉県入間郡三芳町藤久保1150-1  
TEL: 049-274-1511

### 東京キャンパス

人文学部 淑徳大学短期大学部  
〒174-0063 東京都板橋区前野町6-36-4  
TEL: 03-3966-7631